

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	国際植物学会におけるマダガスカルフロラの発表と情報収集
氏名 Name	野依 航
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	農学研究科・森林科学専攻・博士後期課程 2年
渡航国 Country	スペイン
渡航日程 Travel schedule	2024年 7月 19日 ~ 2024年 8月 3日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

スペインで開催される国際学会, International Botanical Congress 2024 に参加し、自身の研究であるマダガスカル・アンカラファンツィカ国立公園におけるフロラ調査と葉緑体ゲノムライブラリーの作成について発表を行うこと。また、各種シンポジウムに参加し、博士課程のメインテーマであるマンリョウのアポミクシスやその多様化、系統的な解析について幅広い観点から知識を得ることを目的として今回の渡航を行った。また、現地のエクスカーションに参加し、日本と共通する高山植生についても学ぶことを個人的な目的としていた。

成果 Outcome

今回の渡航では上記目的を満たすことが十分にできた。ポスター発表では実際にマダガスカルで植生や分類学的調査を行っている Kew Botanical Garden のチームと意見交換を行い、既存の葉緑体ゲノムライブラリーの状況や標本を同定し公開することの意義、利用可能な分類に関するデータベースなどについて情報を得ることができた。加えて、南米コスタリカ、コロンビア、アルゼンチンの熱帯季節林の研究者と交流を行い、共通項やその違いなどから植生の多様さ、成立に関する議論を行うことができた。これらの繋がりと情報は将来的に比較研究等を行う際に非常に有用であると考えられる。

マンリョウのアポミクシスに関する情報収集では、アポミクシスが属内交雑を経て多様化に寄与していること、ゲノムの倍数化、種間交雑と密接にかかわること等、既に論文化されている内容も含め幅広い知識と実際にフィールドで確認された事例について知ることができた。加えて、台湾でマンリョウの研究に従事していた方と交流を持つことができ、将来的な共同研究について検討していくという約束を取り付けることもできた。

エクスカーションでは幅広く 300 種以上の植物について観察を行い、ヨーロッパの地史的な観点も交えながら、どのようにアジア、ヨーロッパ、アメリカ大陸で種が共通しつつも分化していったかの過程とその多様性について学ぶことができた。

今後の展望 Prospects for the future

今後の展望としては、上記交流や得られた知識をもとに、マダガスカルの葉緑体ゲノムライブラリーの作成を完遂し、Kew チームのフロラデータと比較を行い、さらにマダガスカル全土レベルでの汎用性の高いバーコーディング用のプライマー探索などを行っていきたい。マンリョウについてはアポミクシス研究をより深めるためにも、今回交流を持つことができた研究者の方とともに台湾や東アジアのマンリョウコンプレックスについてより詳細なゲノムレベルでの系統解析を行い、その多様化の謎に迫ることができると考えている。